



YUME いっぱい

よく考える子 しんせつな子 きたえる子

佐世保市立吉井北小学校
学校通信 23号
R02.11.20 (金)
文責 校長 堤 祐子



充実の秋～学びの深まり～

運動会が終わり、各学年、次の目標は「学力向上」とばかりにがんばっています。どのクラスをのぞいても、常に真剣なまなざしで学習に集中しているのが印象的です。この機をとらえて、「子どもに分かりやすく学ぶことが楽しくなる授業」を目指し、職員も頑張っています。本校は「自分の意見をもち」それを「交流しあって深める」ことを目標に授業研究に取り組んでいます。各学年、研究授業を行いながら、子どもたちは自分たちの学びにチャレンジし、教師は授業力を磨いています。どの学級をのぞいても、そんな真剣勝負の姿勢が感じられ、楽しそうに学習しています。学ぶことをどんどん好きになって、学力を伸ばしてほしいですね。学力が伸びると子どもたちの自信につながります。ご家庭でも、学校の様子をお聞きになり、励ましてください。



自分の意見を書き込んだ付箋を
並べ意見交流をしています

元気な赤ちゃんを産んでください～清水由依先生～ ようこそ吉井北小へ～吉弘美亜（よしひろみあ）先生～

2年担任の清水由依先生が、24日（火）より産休に入ります。今年度新しい家庭を築き、古川姓から清水姓へ。更にうれしいことに、新しい命を授かって、出産準備及び育児のための休暇をいただくことになりました。初めての出産で本人も不安に思っていたところですが、先日の運動会の折、2年生の保護者の皆様から大きなエールをいただき、感謝しておりました。本日全校朝会で子どもたちにも報告しましたが、清水先生もあいさつの中で「赤ちゃんを授かって、皆さんや先生から声をかけてもらったり助けてもらったりしたことがたくさんありました。改めて自分は、皆さんや、職場の方々、保護者の皆さん、家族や友人に支えられているんだということに気づきました」と感謝の気持ちを伝えておりました。

代わって 吉弘美亜先生が2年生の担任となります。今日は2年生だけ一足先に吉弘先生と会ってお楽しみ会で盛り上がっていました。旧担任と新担任と一緒に活動できましたので、子どもたちもスムーズに慣れていけそうです。今後は清水先生の元気な赤ちゃん誕生を祈りつつ、吉弘先生へのエールをお願いいたします。



本校の宝「直谷城址」

学校の周りの様子について学んでいる3年生ですが、16日（月）、今回はエコツーリズムふるさとの会代表和田隆さんをお招きして、直谷城のことについて現地を案内していただきながら、たくさんのことを教えていただきました。3年生の子どもたちも、とても意欲的に学んでいました。

和田さんは「直谷城」「福井洞窟」「直谷岩陰（北保育園裏）」の歴史的価値を伝えるための営発活動をしていらっしゃる、本校の大先輩です。これだけの遺跡を持つ本校はどれだけ恵まれていることでしょう！

地域の方々のご支援をいただきながら、本校の子どもたちのこの本校の宝について学ばせ、誇りに思い、大事にしようとする気持ちを育てていきたいと思っています。



吉井歴史探訪②

本校の裏山は直谷城（別名内裏城）と言われる山城の跡です。実はこれがすごい価値がある遺跡！周辺の歴史にお詳しい和田隆氏（吉井エコツーリズムふるさとの会代表）の方に詳しく教えていただきました。

【直谷城址（長崎県文化財指定） ①直谷城とは・・・？】

学校裏からの登り口は、直谷城の表口になります。「大手口(道)」と書かれた看板から上るとすぐに杉林に飲み込まれていき、急な登り坂が続きます。ただ人が通りやすいように歩道が整備されています。

直谷城は今から 600 年ほど前の中世戦国時代(諸説あり)の山城です。城主は松浦一族の一員志佐氏。松浦一族は九州の西北部一帯を本拠として発展した土豪群で、海に面し農地が少ないという地理的条件から「水軍」や明・朝鮮との貿易で「倭寇」として活動し、蒙古が襲来した弘安の役(1281 年)に際しての活躍で知られています。松浦一族の中でも志佐氏は貿易に突出した実績があり、一族の中でもとりわけ有力な一員だったことがうかがえます。直谷城主は初代 六郎貞に始まり、16 代松浦 内匠助 重忠まで続き、徳川幕府が決めた「一国一城制」でその歴史を閉じました。(城主墓所は 19 号で紹介)

直谷城の特徴は防御に有利な自然の地形を利用した山城です。立て看板(写真)でも明らかですが、切り立った岩山の上に建てられています。城内は自然を利用した様々な仕掛けがされており、それらの痕跡が多く未だに残されていることが非常に珍しく、この遺跡の価値を高めています。

また、この城にまつわって様々な伝説も残されています。

これら城内の様子については、また、次の機会にお知らせします。



(参考;「直谷城と安徳天皇伝説」和田氏著)



※ 直谷城、是非一度登ってみてください。校舎裏職員駐車場側から登れます。

※ 印刷の都合上、写真が鮮明ではありませんので、是非 HP のほうで拡大してご覧ください。